

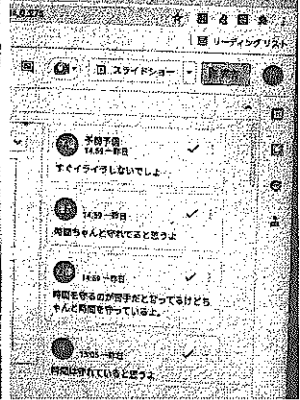
クラウドツールをフル活用 端末持ち帰りを家庭学習とつなげる

静岡市立横内小学校(山崎元靖校長・静岡県)は1月26日、GIGAスクール研究発表会を開催し、1〜3年生と特別支援学級の授業を公開した。研究テーマは「誰一人取り残さない学校を目指して〜端末の持ち帰りが子供の学びをつなぐ『ひろげる』つみかさねる』」。同校はパソコン・ブック教育財団より2021〜22年度特別研究指定校として助成を受けており、アドバイザーとして高橋純教授(東京学芸大学)が支援している。

静岡市立横内小学校

「トリセツ作りで俯瞰する目を育む」

各自の端末で作成して「トリセツ」を作った。自分で考えたトリセツをまとめた後、他の児童からの意見や感想をG「特別支援学級」が「かがやき虹組」では学級活動と「oogiee」スライドのコメント機能で共有して「自分のトリセツ」を親的なトリセツを完成させ「取り扱い説明書」を



共有している他の児童のトリセツにコメントを送り合う

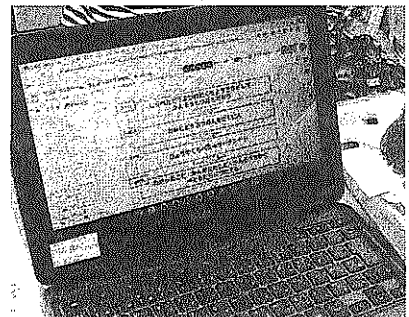


自分のトリセツに他の児童からもらったコメントについて質問している

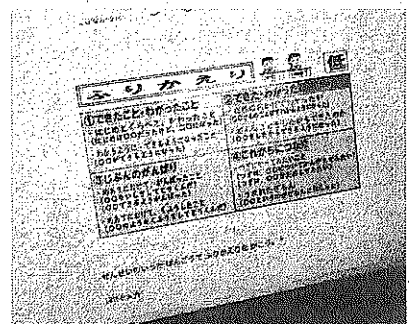
ミンク辞典「『鷹病』は慎重、用心深い、『しつこい』は粘り強い等の置き換え例をまとめたもの。互いのコメントを整理。発表内容を改善する」

3年総合「相手に伝わりやすい話し方を考えよう」では、児童は自分が興味を持ったニュースポーツを1つ取り上げ、どのようなスポーツでどんなルールがあるか等について調べてスライドにまとめ、発表している。「good」コメントを

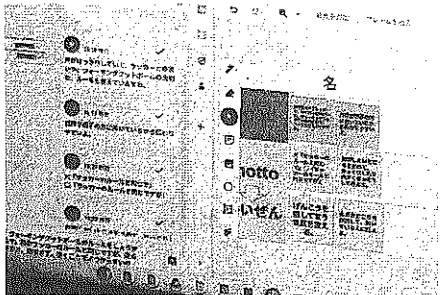
授業後のふり返りはG「oogiee」フォームのアンケート機能を使用しており、児童は「自分の目線と他人の目線が違った」「質問しに行きたくて納めできなかった」「新しい自分を発見できた」等をキーボード入力や手書き入力で書き込んでいた。※リフレ



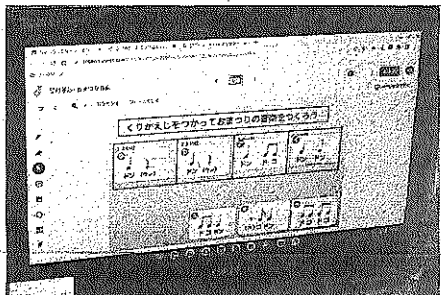
授業冒頭に学習の流れを配信



ふり返りのポイントを見直してから記入する児童も



もらったコメント(左)を「goodコメント」「mottoコメント」に整理して改善点を考えた



リズムカードを組み合わせておまじりの音楽作り

学習の流れを確認各自で進める

1年国語「どうぶつのはなちゃん」では調べた動物の特徴をまとめ、感想を伝え合う内容だ。児童は端末でこの日の流れを確認してから各自の学びを始めた。

児童は、ソウやコアラ、イルカ、ヒキマ等様々な動物を各自で選択して「生まれてすぐ大きく育つ」「大きくなり移動のしかた」等いくつかの

多様なふり返りで端末活用

山崎元靖校長

2022年度から本校に赴任した。児童の成長は目を見張るものがあり、それに引かれて教員も大きく成長している。情報担当は「全員ができること」を大切に

2022年度から本校に赴任した。児童の成長は目を見張るものがあり、それに引かれて教員も大きく成長している。情報担当は「全員ができること」を大切に。進め、短時間研修を多く企画。リーダー的な役割を持つ教員を増やしていき、苦手を克服して教員も安心して進めること

高橋純・東京学芸大学教授

初年度の取組の中心になっていた教員が半数以上真動する中、児童も教員も成長が著しい。「誰一人取り残さない」という目標は「全員同じゴールに到達すること」ではない、苦手を克服は必要

「苦手克服」から「好きを伸ばす」学びへ

ではないかと考えている。試験範囲が決まっていれば、苦手克服は必要で効果的な学習である。しかし情報量が増えた今、試験範囲を決めた学びでは知識の創造は難しい。知識の質を高めるために、好きなことを増やして主体的にすべての児童が学びに取り組むこと、それを共有して新たな知識の創造につなげることが

項目について表にまとめている。困ったときは、同じ動物をまとめている友達と協力しても良いこととしており、誰がどの動物を調べているのかについても共有。授業中に協力し合う様子が見られた。2年音楽ではリズムカードを組み合わせておまじりの音楽作りを取り組んだ。端末上で6つのリズムカードを使って組み合わせを考えながらおまじりの音楽作りを考え、友達と披露し合っていて比較・交流した。

端末持ち帰りを授業とつなげる。情報担当・笹瀬裕子教諭「新しいことにどんどんチャレンジしたい教員もいれば、少しずつ進んでいきたい教員もいる。『誰一人取り残さない』のは教員も同様で

の時に活かされている。特別支援での端末活用は当初、難しいと思いましたが、よいコミュニケーションツールになっており、児童は明らかに成長した。音楽の授業は教室で行った。低学年は音楽室の割り当て時間が少ないが、端末を使うことで教室でも音楽の授業を進めやすくなった。これまでのやり方が通用しない場合もある。協創型リーダーの創出は今後一層重要であると感じている。

あると考えて1回20分程度の研修「ちよこつとGIGAタイム」を2週間1回程度実施。講師を交代制にして互いに質問し合える雰囲気づくりを意識した。徐々に教員からのアイデアが出るようになり、助け合う場面が増えていった。昨年度から端末持ち帰りを始めた。デジタル音読カードやタイピング練習、AIDドリル、動画視聴・分析、リーダーや歌、裁縫等の動画テスト、スライド作成などの自主学習などを家庭で行うようにしている。端末持ち帰りについて3年生以上の児童アンケートでは、9割以上が学習の選択肢が広がった「意欲的に取り組めた」「学習がわかりやすくなった」「学習が楽しくなった」「家庭学習を授業に活かされた」と回答している。